

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立藤山台小学校

校長 南 英 雄

事業テーマ	子どもが主語となる学校生活をめざして ～授業・行事を通して主体性を高める～	
取組の目的	昨年度まで地域連携と授業研究の2本柱で「創意と活力」のある学校づくりに取り組んできた。一方で、本校は不登校・登校渋り・別室登校の割合が高い傾向がある。そこで、学校に来ることが楽しくなるよう、子どもが主体となって活動できる学校を目指したいと考えた。そのために、授業においては令和4年度から研究テーマとしている「自分で学び続ける子の育成」に取り組み、自ら追究したり協働的に学んだりできるようにしていく。行事については、地域とのつながりを大切にした行事の実施・参加に加え、復活し始めた学校行事で子どもたちが主体的に活動できるようにする。	
区 分 (○印を付ける)	☒新規事業・継続事業（総事業年数 年間、 年目）	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容		
事業名	事業内容	実施時期
子どもが主語となる学校生活をめざして～授業・行事を通して主体性を高める～	○地域連携室との連携 地域の人に学ぶ会、図書ボラ読み聞かせ、花ボラ・学習会など ○学校行事 藤小フェスティバル・縦割り班活動・児童会活動など ○授業改善 講師招へい・校内授業研究の実施・授業視察・研究会参加など	令和5年4月～ 令和6年3月
取組の成果： 令和5年度は、子どもが地域とのつながりを深め、各種地域行事や、地域連携室主催のボランティアに児童が進んで参加できるしくみを整え、地域への参画を進めることができた。また教員の力量向上については、本校研究の柱として、学習過程、基本の見方・考え方、人間関係の3つを取り上げ、教職員がこの3つのそれぞれの部会で専門的に学んできた。また先進校の視察や研究会にも参加した。学んだことをアウトプットし、教職員全体で学びの共有を行った。子どもが主語となる学校生活を目指していくために、本校の課題である不登校、登校渋りの児童のための対策		

として、空き教室を利用した「心の教室」を整備し、児童が安心して過ごせる場を提供した。児童の心のサポートや学習支援に取り組んだ。

課題： 令和5年度までの取り組みを土台として、令和6年度は、授業としては「自分で学び続ける子の育成」研究の継続と新たな学び、行事としては「主体的に活動する子の育成」を柱に、子どもが主語となる学校生活を目指していきたい。校内行事については、なかよし班活動を通して子どもの主体性や積極性を高めていきたい。地域行事については、子どもが地域とのつながりを深められるよう、引き続き各種地域行事や、園芸ボランティアなどの学校運営協議会主催のボランティアを開催し、地域への参画を進めていきたい。